

ONE for ALL, ALL for ONE

若穂地区住民自治協議会会長 綿内剛美

新年明けましておめでとうございます。

旧年中のご支援・ご協力に心より感謝申し上げますとともに、本年も宜しくお願い致します。

昨年、組織見直しによる新体制でスタートした自治協ですが、どの部会においても住民の皆様のご協力のもと、計画に基づき順調に事業を進めてまいることができました。また期待の大きい市・県・国関連のインフラ事業も、多くの関係者のご尽力により、遅々とした歩みではありますが前進をみせております。

一方、昨年の目玉として実施した、地区内路線バス利用促進対策「くるる購入補助」事業には、お陰様で凡そ500件の申し込みがありました。現在は、「通学定期補助」事業を実施中ですので、大いに活用していただき、将来にわ



コースが延びた綿内・森区で声援

たって安定的に公共路線バス運行が維持できるように、更なるご協力をお願い致します。

若穂を発信する大イベント「とびっくラン」は昨年5回目を数えました。北海道から九州まで約1700人の選手参加があり、ボランティア・応援者を含めると、当日会場は3000人を超える人で盛り上がりました。沿道上では区長さんはじめ多くの住民の皆さんが、様々に趣向を凝らした応援をして下さり、選手から「大きな励みになった。」と嬉しいコメントを数多くいただきました。「とびっくラン」が若穂全体の事業として認知され、若穂発展の礎となってきたことが確信でき

大変力強く思います。

さて、若穂にとって今年はどうなるのでしょうか。種々様々な課題があり、一つ一つに皆が粘り強く取り組んでいかなければならないことには変わりありませんが、喫緊の重要課題として「鳥獣害対策」があります。現在は、農家組合・JA・猟友会を中心に構成されている「若穂有害鳥獣対策協議会」が、防護・駆除・被害等への対応にあたっています。また綿内・川田・保科地区の山間地周辺区においては、それぞれに防護柵(電作・緩衝地帯等)を設置したり、その計画を進めているところで、該当区にとっては人的にも資金的にも大変な負担になっています。併せて、若穂周辺の松代・須坂等においては防護柵の設置がほぼ完了済みで、若穂への被害が一層増えるとの懸念も増大しています。事実、昨年、熊・猪・猿などが住居近くまで出没しているのが何回かにわたり目撃されています。今のところ人的被害が出ていないことが救いですが、このままではその限りでない事は明白です。

私たちは今後どうしていけばよいのでしょうか？ 現在のまま、農家組合員や山間地周辺区民の人的・資金的尽力、猟友会員の危険を伴う労力に任せっぱなしでいいのでしょうか。若穂住民全体の安心安全な暮らしを彼らだけに背負わせ、安閑としていいのでしょうか。

昨年11月8日に、この件に関しての臨時若穂区長総会を持ち検討しました。結論は出ませんでした。若穂住民全体の問題として捉え、それぞれの自治区で話し合いを持ち、対策案を考えることになりました。基本的には①個体が居住地に出てこられない策、②個体数を減らす策一が求められますが、それらの策が将来にわたって円滑に維持・推進していける具体案を是非、「オール若穂」で真剣に考えて欲しいと思います。

「一人はみんなのために、皆はひとりのために」

本年が皆様にとって良い年でありますことを心より祈念申し上げます。



長野市、若穂にも「地域おこし協力隊員」2名配置 どうぞよろしく！！



【名 前】
【出 身】
【家 族】

【趣 味】 スキー、ギター、カメラ
【意気込み】 若穂地区が更に良い地域となる
きっかけを作りたいです。
焦らず、急がず、しかし着実に！
家族共々お世話になります。

【名 前】
【出 身】
【家 族】

【趣 味】 登山、読書、スキー
【意気込み】 若穂の魅力を多くの人に知って
いただき、更に魅力ある地域
作りにも貢献したいです。
よろしくお願いします。



●「地域おこし協力隊」は国の政策を受けて長野市が進める外部からの定住者促進策で、中山間地区の活性化を目的としています。若穂は今年8月に2名を公募したところ全国から15名の応募があり、面接の結果、2名に決まりました。若穂に住まいをえて、デスクは若穂支所。市が1～3年間支援します。主テーマはジビエ振興ですが、色々な面で「若穂の元気！！」につながるものと期待されています。【歓迎】



においもなく、美味しいね！

市と若穂地区が進めているイノシシのジビエ活用。十二月七日、自治協三役・事務局スタッフがジビエ料理の提供を始めた長野市役所食堂を訪れ、その様子を視察しました。この夜は他にも三ッグールプ……。ジビエへの関心もあって盛況でした。



NHK長野放送局の「撮るしん。スペシャル」。12枚のカレンダー写真を選ぶという視聴者投票型の番組で11月分に保科清水寺のモミジの紅葉が選ばれました。

あとがき 大河ドラマ『真田丸』が終了。お隣、松代真田10万石のルーツでもあり、ドラマには気持ちが入りました。17年は『おんな城主 直虎』、18年は『西郷どん』。真田氏がドラマ化されたので、長野県でドラマ化運動が続くのは木曾義仲と保科正之。正之は徳川秀忠(『真田丸』では星野源さん演じる)の庶子。故あって高遠城主「保科氏」の養子となり、後に初代会津若松藩主。「保科氏」のルーツは若穂保科です。